

平成31年度 学校評価総括表 伊丹市立天王寺川中学校

| 教育目標  |                | 夢と誇りのある生徒の育成 ～自分の意志・判断で自ら責任をもち行動する態度を育てる～  |  |   |       |   |   |   |
|-------|----------------|--|--|---|-------|---|---|---|
| 重点目標  |                | ① 自ら学び考える主体的な力を育む。② わかった、できたと実感できる授業を展開し、基礎・基本の定着及び活用する力の向上を図る。③ 問題行動や不登校生徒の減少に向けた未然防止・早期対応の充実を図る。④ ホームページ、メール配信等を有効に活用し、天中の教育を積極的に発信する。⑤ PTA主催の活動に積極的に参加することにより、PTAとの連携を密にする。 |  |   |       |   |   |   |
| 項目    | 重点項目           | 具体的施策  | 達成目標   | 自己評価  | 成果と課題 | 改善策   | 学校関係者評価   |   |
| 学力の向上 | 基礎・基本の徹底と、授業改善 | <ul style="list-style-type: none"> <li>・基礎的、基本的な知識・技能を習得する。</li> <li>・授業力の向上と授業の改善をめざした校内研修会を実施する。</li> <li>・週末課題を習慣化させる。</li> </ul>   | <ul style="list-style-type: none"> <li>・終礼学習、放課後学習、土曜スクールを行い、基礎基本の定着を図る。</li> <li>・公開授業を行い、授業評価等をもとにわかりやすい授業を目指す。</li> <li>・ICT機器を活用したわかりやすい授業に取り組む。</li> <li>・家庭との連携を図り、家庭学習の習慣化を図る。</li> </ul>                     | <ul style="list-style-type: none"> <li>・土曜スクールの参加人数を平均50人以上にする。</li> <li>・終礼学習確認テストの不合格者を各学年で30人以下にする。</li> <li>・授業はわかりやすいと感じる生徒の割合を75%以上にする。</li> <li>・授業は楽しいと感じる生徒の割合を75%以上にする。</li> <li>・ICT機器の使用回数を月に100回以上にする。</li> <li>・家庭学習をする習慣がある生徒の割合を75%以上を目指す。</li> </ul> | B     | <ul style="list-style-type: none"> <li>・土曜スクールの参加人数が大幅に上昇し、目標値に達した。(H31 53.25人、H30 50.6人、H29 22.1人、H28 30.9人)</li> <li>・課題は、日程によっては参加人数が少ない時がある。</li> <li>・ICTの有効活用や授業形態の工夫等を行った結果、生徒たちは、先生は教え方に工夫をしていると年々、向上して感じている。しかし、授業はわかりやすく楽しいにはつながっていない。</li> <li>・ICT機器の活用状況は月155.1回と増加している。</li> <li>・HPの掲載など宿題を出していることは伝わっているが、生徒は家庭学習への意欲が低い。</li> <li>・家庭学習をする習慣は年々、減少している。</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>・土曜スクールに参加しやすいように、日程の調整や部活動を実施しない等の配慮を行う必要がある。また、子どもたちの参加を促す特色ある内容を盛り込んでいく。</li> <li>・授業が「わかりやすい」「楽しい」をそれぞれ別々に実態調査をとり、授業分析を行う必要がある。</li> <li>・授業改善に努めながら、基礎基本の定着を図っていきたい。</li> <li>・タブレット導入に伴い、効果的な使用方法について、研修等を重ねていく。</li> <li>・デイリーワークや週末課題等、宿題の出し方を工夫するとともに、家庭にも適宜、情報提供を行い、家庭との連携を図っていく。</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>・土曜スクールの参加人数が増加したことは評価できると思います。基礎基本の定着を図るための土曜スクール等の学習内容を検討してください。</li> <li>・生徒がわかりやすいと感じている具体的な授業方法等の把握と、授業内容が定着できているかの分析をしっかりと行って改善策を講じてください。</li> <li>・ICT機器の導入はこれからの学習に不可欠だと考えられます。効果的なICTの活用方法について職員研修等を進めてください。</li> <li>・家庭学習については喫緊の課題と感じられます。実効性のある宿題の出し方と、生徒一人ひとりに将来の目標を明確にもたせ、学習意欲が高められるよう期待します。</li> </ul> |
|       | 学習規律の確立        | <ul style="list-style-type: none"> <li>・チャイム席を徹底する。</li> <li>・学習環境の整備を進める。</li> <li>・よく聴く姿勢を育む。</li> </ul>   | <ul style="list-style-type: none"> <li>・学習委員、班長、学習係を中心にチャイム席の徹底を図る。</li> <li>・清掃の徹底を美化委員会を中心に呼びかける。</li> <li>・整理整頓、ゴミを拾うなど環境整備を教師が呼びかける。</li> <li>・話を目と耳と心で聴けるように呼びかける。</li> <li>・教師は生徒が前を向いて聞く姿勢になるまで待つ。</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>・チャイム席を守れている生徒の割合が90%以上であることを維持し、準備物もそろえて静かに待てるようにする。(A評価は50%以上にする。)</li> <li>・「学校や教室が学習や生活の場として整っている」の割合を85%以上にする。</li> <li>・「人の話を聴く姿勢が出来ている」割合を90%以上にする。(A評価は40%以上にする。)</li> </ul>   | A     | <ul style="list-style-type: none"> <li>・チャイム席の徹底に関しては95.4%と目標値を達成できた。また、A評価も70.1%と目標値を大きく上回った。</li> <li>・「学校や教室が学習や生活の場として整っている」の割合は84.9%と概ね、目標値を達成した。また、月1回、設備点検・安全点検を行っているが、校舎の老朽化による窓の開閉の不具合等、メンテナンスが必要な箇所が多々ある。</li> <li>・教室にゴミが落ちていることが、時々ある。</li> <li>・「人の話を聴く姿勢が出来ている」の割合は91.2%と目標値を上回った。</li> </ul>   | <ul style="list-style-type: none"> <li>・チャイム席に関しては、引き続き、徹底して100%を目指していく。</li> <li>・メンテナンスが必要な箇所を迅速に把握し、随時、計画的にメンテナンスを行う。</li> <li>・物を大切に扱うように指導する。</li> <li>・ゴミが落ちていたら拾うように指導する。</li> <li>・聞く姿勢に関しては、現状を維持するとともに目と耳と心で聞けるよう指導していく。</li> </ul>   | <ul style="list-style-type: none"> <li>・今後もこの取組の継続をお願いします。</li> <li>・学習環境の整備は非常に重要なことだと認識しています。学習しやすい学習環境を今後もお願いします。</li> <li>・体幹が弱い生徒が増加していると聞きます。そのため、体育の時間で体幹を鍛えるトレーニングに取り組まれてはどうか。</li> </ul>   |

|            |         |  |  |  |   |   |   |   |
|------------|---------|--|--|--|---|---|---|---|
|            | 読書活動の充実 | <ul style="list-style-type: none"> <li>・朝読書を徹底させることで、学習に落ち着いて取り組むとともに、語彙力の獲得を図る。</li> </ul>  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・読書活動の活性化を目指すために、国語科をはじめとする各教科と学校司書、図書委員の連携を図る。</li> <li>・読書に関するさまざまなイベントを通して、読書に前向きに取り組ませる。</li> </ul>   | <ul style="list-style-type: none"> <li>・月1.5冊以上読書する。</li> </ul>  | B | <ul style="list-style-type: none"> <li>・読書量調査では、月1.67冊の読書をしており、目標値を達成している。</li> <li>・開館日の図書室の利用状況は、平均60人程度で、多くの生徒が図書室を利用できている。</li> <li>・図書室の利用や読書の取組については、個人差が大きい。</li> <li>・「読書を積極的にしている」は、65%であり、前年度(66.9%)を下回るなど、図書室で行っている活動を十分にアピールできていない。</li> </ul>  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・学校図書館の魅力を生徒たちに伝え、通館したくなるような図書館活動を工夫する。</li> <li>・授業以外で図書室に行く機会を増やす。昼休みなどの時間を有効に活用する。</li> <li>・国語科だけでなく、全教科で図書館教育を活用する。</li> <li>・図書館だよりをHPにアップする。</li> <li>・各学年での調べ学習で活用していく。</li> </ul>   | <ul style="list-style-type: none"> <li>・図書室を利用する生徒が昨年度と比較して、増加していることは評価できます。今後もより有効活用できる図書室のあり方について学校司書の先生を中心に検討してください。</li> </ul>  |
| 豊かな心・健やかな体 | 生徒指導    | <ul style="list-style-type: none"> <li>・組織的な生徒指導に取り組む。</li> <li>・問題行動の予防に努める。</li> <li>・いじめ問題への対応力の向上に取り組む。</li> <li>・不登校の予防に努める。</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>・学校全体で、共通理解事項を全職員に周知徹底する。</li> <li>・地域のパトロール回数を増やす。</li> <li>・年に2回、教育相談週間をもうけ実態把握を行う。</li> <li>・充実感のある行事を行う。</li> <li>・Q-Uアンケートの結果を活用し、学級運営に活かす。</li> <li>・連絡なしに登校していない生徒はすぐに連絡し、様子を確認する。</li> <li>・職員間で連携を取り、不登校に複数で対応する。</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>・「先生は良いことは良い、悪いことは悪いときちゃんと指導している」という生徒の割合を90%以上にする。</li> <li>・地域のパトロールを月1回行う。</li> <li>・「学校へ行くのが楽しい」「学校行事は楽しい」という生徒の割合を昨年度以上にする。</li> <li>・「先生は生徒の悩みごとや不安に親身になって相談にのってくれる」という生徒の割合を90%以上にする。</li> <li>・不登校生の割合を昨年度以下にする。</li> </ul> | B | <ul style="list-style-type: none"> <li>・「先生は良いことは良い、悪いことは悪いときちゃんと指導している」は91.9%で、前年度(90.5%)を上回り、目標値も達成した。</li> <li>・パトロール月平均2回、計画的に実施することができた。</li> <li>・学期に1回のいじめアンケート調査を行い、迅速ないじめ対応が図れた。</li> <li>・研修を通して、Q-U調査を有効に活用できた。</li> <li>・「先生は生徒の悩みごとや不安に親身になって相談にのってくれる」は86.4%で、昨年度(85.5%)より上回ったが、目標値は達成できなかった。</li> <li>・不登校生の割合が(1.69%)で昨年度(3.04%)を下回り、目標は達成できた。しかし、不登校ゼロを目指し、きめ細やかで適切な家庭との連携を図る必要がある。</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>・引き続き、「天中ルールブック」の効果的な活用により、組織体制を強化していく。</li> <li>・学校、家庭、地域の連携を推進していくとともに地域の新しいFree Wi-kiエリア等の生徒が集めるような場所を把握する。</li> <li>・アンケート調査や教育相談週間、やりとり帳等を活用して、いじめの早期発見、早期解消、再発防止に努めていく。</li> <li>・学年行事等を有効に活用して、生徒が楽しいと思える魅力的な学校づくりに努める。</li> <li>・研修を通して、教員の指導力、授業力の向上を図る。また、組織的な指導体制の構築を推進していく。</li> <li>・SC、SSW、関係機関等の連携を図り、不登校生の減少に努める。</li> <li>・ケース会議を積極的に実施し、個々に応じたきめ細やかな対応を検討していく。</li> <li>・すべての教育活動を通して、生徒の自尊感情、自己有用感の醸成に努める。</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>・今後もこの取組の継続をお願いします。</li> <li>・少年補導委員やPTAのみなさんと協力して地域での子ども達の活動を把握してください。</li> <li>・いじめはいつでもどこでも起こりうることを認識しつつ早期発見、早期解消に向けて組織的な取組を行ってください。</li> <li>・不登校問題については、伊丹市内の大きな課題になっていると聞いています。一人ひとりの生徒の心に寄り添い、不登校生だけでなく、長期欠席生徒に対しても、きめ細やかな対応をお願いします。</li> </ul> |
|            | 道徳教育の充実 | <ul style="list-style-type: none"> <li>・「心の教育」を推進する。</li> </ul>  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・道徳を中心に教育活動全般で相手を思いやる心を育む。</li> <li>・「朝のあいさつ運動」を実施してあいさつの定着を図る。</li> <li>・A-1グランプリを定期的実施する。</li> </ul>  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・「自分を大切にすることや、他の人への思いやりについて教えてもらっている」の割合を80%以上にする。</li> <li>・「あいさつをきちんとできている」生徒の割合を80%以上にする(A評価で50%以上にする)。</li> </ul>   | A | <ul style="list-style-type: none"> <li>・「自分を大切にすることや、他の人への思いやりについて教えてもらっている」の91.2%をはじめ、道徳に関するそれぞれの項目で、高評価であった。しかし、学年によってA評価に差が見られる。</li> <li>・「あいさつをきちんとできている」は89.8%で、A評価も54.2%と目標値を上回った。授業後のあいさつについては、A-1グランプリの取組の効果が現れている。</li> <li>・日常生活では、あいさつは浸透していない。</li> </ul>  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・道徳の授業の取組等を学年通信やホームページ、掲示物等で発信する。</li> <li>・全ての教育活動を通して自尊感情を高め、他者を思いやる心を育む。</li> <li>・授業前後のあいさつだけではなく、日常的のあいさつの大切さも指導していく。</li> </ul>  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・今後もこの取組の継続をお願いします。</li> <li>・授業前後だけでなく、地域でも自主的にあいさつができるよう家庭との連携を通して、あいさつができる天中生を目指してください。</li> </ul>  |

|                |   |   |   |   |   |  |   |
|----------------|---|---|---|---|---|--|---|
| 健やかな体の育成       | <ul style="list-style-type: none"> <li>・規則正しい生活習慣の獲得を図る。</li> <li>・部活動の活性化を図る。</li> </ul>                     | <ul style="list-style-type: none"> <li>・早寝・早起き・朝ごはんを生徒・家庭に呼びかける。</li> <li>・終礼でほげんだよりの内容について触れ、健康管理を促す。</li> <li>・教師の専門性を活かしたり、外部コーチによる指導を行う。</li> </ul>     | <ul style="list-style-type: none"> <li>・規則正しい生活習慣を送っているという生徒の割合を80%以上にする。</li> <li>・「部活動が充実している」と感じる生徒の割合を90%以上にする。</li> </ul>  | A | <ul style="list-style-type: none"> <li>・「規則正しい生活習慣を送っている」は77.3%と目標値の80%を達成できなかった。</li> <li>・「部活動が充実している」が89.8%とほぼ目標値を達成することができた。</li> </ul>   | <ul style="list-style-type: none"> <li>・懇談会や終礼等で早寝・早起き・朝ごはんについて、家庭への協力を依頼する。また、生徒、家庭に対して啓発のプリントを作成する。</li> <li>・充実させる内容(目標)を各部活動で持たせ、活動していく。</li> <li>・部活動で学んだことが、実生活で役に立つことを実感させる。</li> </ul>               | <ul style="list-style-type: none"> <li>・家庭、地域との連携のもと、規則正しい生活習慣の確立に向けた取組を期待します。</li> <li>・今後もこの取組の継続をお願いします。</li> </ul>  |
| 開かれ信頼される学校園    | <ul style="list-style-type: none"> <li>・積極的に学校情報を発信する。</li> <li>・学校評価の充実を図る。</li> </ul>                       | <ul style="list-style-type: none"> <li>・学校ホームページの積極的な更新をする。</li> <li>・学校便り・学年通信を合計月4回以上発行し、ホームページ上でも閲覧できるようにする。</li> <li>・学校評価アンケートをホームページで公開する。</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>・学校ホームページを月10回以上更新する。</li> <li>・学校便り・学年通信を合計月4回以上更新し、ホームページ上で公開する。</li> <li>・学校評価結果を学校運営に反映しやすくするため、年1回2学期末にアンケートを実施する。</li> </ul> | A | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ホームページは月平均9回、学校便り等は月平均3.6回の更新や、適宜メール配信を行った結果、90.8%の保護者から高評価を得た。また、記述アンケートにおいても、「行事等はリアルタイムで様子知れて嬉しい」等の回答を得ることができた。</li> <li>・1、2年生の保護者からは、進路に関する情報を24.3%が知らされていないと回答していた。</li> <li>・学校評価をホームページで公開できた。</li> </ul>   | <ul style="list-style-type: none"> <li>・学校便り、学年便り、進路便り等を積極的にホームページを活用して発信していく。</li> <li>・ホームページ上に、進路情報のファイルに別途作成して、わかりやすくさせ、積極的に発信していく。</li> <li>・積極的にミマモルメの加入を呼びかけていく。</li> <li>・質問項目の見直しを行っていく。</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ホームページは地域や保護者が楽しみにしています。リアルタイムでの更新をお願いします。</li> <li>・進路についての情報を積極的に発信し、生徒たちが将来の目標を持てるよう取り組んでください。</li> <li>・ミマモルメは学校から配信するための大きなツールとなります。100%の加入を目指して呼びかけてください。</li> <li>・学校評価アンケートの分析と具体的な方策について、職員や保護者が共有して取り組んで行くことが必要だと思えます。</li> </ul> |
| 教職員の意識改革と資質の向上 | <ul style="list-style-type: none"> <li>・わかる授業を追求する。</li> <li>・地域・保護者との連携を図る。</li> <li>・校内外で研修に努める。</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>・公開授業等を通してわかりやすい授業を追求する。</li> <li>・PTAの主催行事・地域の行事等に積極的に参加する。</li> <li>・校内外の研修で資質や指導力の向上に努める。</li> </ul>              | <ul style="list-style-type: none"> <li>・1年に1回以上の公開授業を行う。(期間中に必ず1回は参観)</li> <li>・校内外の研修に平均10回以上参加する。</li> </ul>  | A | <ul style="list-style-type: none"> <li>・「学びに向かい、学びを生かす生徒の育成」をテーマに、年に2回の研究授業を開催できた。また、全教員が年1回以上の公開授業を行い、授業改善に努めることができた。今後も、わかる授業づくりに努めていく必要がある。</li> <li>・ふれあいの集いや葉刈り、地域の祭りやトライやるアクション等の多くの行事に参加できた。</li> <li>・地域・保護者との連携のもと、周年行事を成功させることができた。</li> <li>・講師を招いて、計画的に校内研修会を開催できた。また、校内外の研修会に平均10回参加することができた。</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>・研究授業や授業研究会で学んだことを今後の授業に生かしていく。</li> <li>・学力向上プランに基づいて、教科ごとに課題の改善に努めていく。</li> <li>・継続して地域と連携を図っていく。</li> <li>・研修会に参加して参考となった内容等を教職員で情報共有し、資質の向上に努める。</li> </ul>       | <ul style="list-style-type: none"> <li>・教員の授業力の向上は不可欠で、年間1回以上の公開研究会は授業改善につながると考えられます。子ども達がわかる授業とはどのようなものか絶えず自問自答する先生方であってほしいと思います。</li> <li>・今後もこの取組の継続をお願いします。</li> <li>・今後もこの取組の継続をお願いします。</li> </ul>   |

学校関係者評価総括

本年度創立50周年の節目を迎えました。新しい天王寺川中学校が100周年に向けて来年度は第一歩を迎えます。本年度の取組についてはおおむね評価できると思えます。天王寺川中学校の現状を十分把握し、課題に対して適切な改善策を講じていただくことを期待します。生徒にとって「行きたい学校」、教員にとって「働きがいのある学校」、保護者にとって「通わせたい学校」、そして地域からは「誇れる学校」になるよう学校・家庭・地域が目標に向かって取り組んでください。

次年度に向けた重点的な改善点

- ・学力向上のための授業改善に努める。そのため、研修会等の充実を図り、①「わかった・できた」と実感できる授業づくりを展開する。②「主体的・対話的で深い学び」のある授業づくりに努める。③ICTを有効に活用する。
- ・不登校生の減少に向けた対応の充実を図る。そのため、学校が子どもたちのにとって、「心の居場所」となる『魅力的な学校づくり』を推進する。
- ・信頼される開かれた学校づくりを目指す。そのため、積極的にホームページやメール配信等を活用し、本校の教育活動を保護者・地域に発信する。

自己評価の基準 A: 目標を上回った B: 目標どおりに達成できた C: 目標をやや下回った D: 目標を大きく下回った